

「松山の授業モデル」とICT活用（音楽科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p>■ 学習課題の設定</p> <p>習得・活用・探究</p>	<p>音楽の特徴を捉え、学習の見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータのソフトウェアなどを活用し、音楽を聴くことと楽譜を見ることを同時にできるようにしたり (A1)、自分の出した声の音高や声量をコンピュータ等の画面上の図形等の変化によって捉えられるようにしたり (B1)、また、主旋律を演奏する楽器の演奏場面が強調された映像を見ながら聴くことができるようにしたり (A1) することなどが考えられる。  <p>学校の壁を越えた学習や生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関わりを豊かにしていく場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽科の学習で扱った作品や作曲者についてインターネット上で検索し、音声動画サイト等を活用して複数の演奏を比較したり、事典などのWebページを閲覧してその音楽の背景について調べたりすること (B2、B3、B5) が容易になる。
<p>■ 交流し考える学習</p> <p>交流・表現・体験</p>	<p>知識や技能を得たり生かしたりしながら、音楽表現を創意工夫する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌唱の活動で、どこが一番盛り上がる部分なのかを確認することや、声部の役割などをクラス全体で考える際に、出た意見を書き込み機能がある大型提示装置等へ書き込み、色を変えて分類したり、違うアイデアにどんどん入れ替えたり整理したりしながら、歌い方を練っていくことに活用できる (A1、C1、C2)。 自分たちの音楽表現を聴き返したり、工夫の過程での音楽表現を聴き比べてその変化を捉えたりしながら、客観的な根拠を基に、音楽表現についての思いや意図をもったり、その思いや意図を共有したり、さらには、技能面の課題に気付いたりすることも期待できる (B1、B3、C1、C2)。 音楽表現を工夫していく学習活動においては、デジタルビデオカメラ等で自分たちの演奏を記録するなどし、それを聴いたり観たりして確認することも有効である (A1、B1、B3、C1、C2)。 ソフトウェア等を用いて音楽づくり (創作) を行う際に、様々な音素材や、リズム、旋律などを組み合わせ、どのような音楽が生まれるのか、自分のイメージを生かした音楽に近づいているかなどを実際の音で確認しながら、更に何度も違うやり方を試すなど、よりよい表現を探求していくことが大切である (B1、B3、B4、C1、C2)。  

<p>■ 交流し考える学習</p> <p>交流・表現・体験</p>	<p>知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさや美しさを見いだし、曲全体を味わって聴く場面（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で鑑賞する際に、教師がタブレット型の指導者用コンピュータ等を活用し、児童の状況に応じて部分的に何度も聴き直したり、プレゼンテーション用のソフトウェア等を用いて、曲のどの部分を聴いているのかを可視化して確認できるようにしたりするといった活用が考えられる（A1、B3）。また、グループでタブレット型の学習者用コンピュータを用い、いくつかの部分に分割された鑑賞曲の音源を聴きながら、音楽の特徴を書いたヒント等を手掛かりに正しい順番を考え、音源を聴きながら並び替えるという活動を通して作曲家が工夫した音楽のよさを感じ取るという活用例もある（B3、C2）。 <p>知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを見いだす場面（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が気になったところや聴き返したいところについて、各自が自分のペースで確認する過程（B1）や、理解したことや捉えた音楽の特徴を他者と共有したり、より学習を深めたりする過程（B3、C1、C2）での活用が考えられる。  <p>学校の壁を越えた学習や生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関わりを豊かにしていく場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校の生徒、学校外の音楽家等と音楽を通して交流したり、音楽学習に関する情報交換を行ったりしながら、音楽表現の共通性や固有性を理解したり、音楽の多様性について考えたりすることなどが考えられる。さらには共同で音楽作品等を制作したりすることもできる（B2、B3、B4、C1、C2、C4）。
<p>■ 学習の振り返り</p> <p>内容×方法</p>	<p>学校の壁を越えた学習や家庭学習において活用する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における音楽学習の中で気になったことや、更に追及して学びたいことについて、家庭でインターネットやデジタル教材等を活用して、継続的に学習に取り組むことができる（B2、B5）。